

(公社) 日本放射線技術学会 第 65 回近畿支部学術大会

シンポジウム I :

『探求の道 Lead Clearly ～モダリティスペシャリストからの提言～』

「市中病院における研究の進め方」

市立大津市民病院 中村 昌文

市中病院での研究は、様々な問題に直面すると考える。まず、装置本体やソフトウェアバージョン、オプションソフトウェア、所有する受信コイルなど設備に起因するものが考えられる。また、研究機関ではないことから、研究に対し指導してくれる上司や先輩、相談できる同僚が必ずしもいるとは限らないと思われる。研究とは、物事を学問的に調べて真実を明らかにしていくことであり、研究自体は一人で進めることも可能ではある。しかし、学会発表や論文投稿を考慮すると、一人で研究を進めることには無理がある。

本講演では、学術活動を始めた動機、研究 seeds の選定、研究活動のデザイン、研究環境や研究の進め方などについて、自験例を踏まえて紹介したいと考える。また、遅まきながら 2020 年に金沢大学大学院博士前期課程に進学した。コロナ禍によってオンライン講義となってしまったが、進学方法や進学した動機、現況などについても紹介したいと考える。